

メガネやコンタクトレンズで矯正しても良い方の目の視力が0.5を下回る「視覚障害」の人は現在、国内で160万人を超す。その約7割が60歳以上で、社会の高齢化とともに今後も急増が見込まれている。国立病院機構東京医療センターの山田昌和・視覚研究部部長は、視力検査に加えて複数の種類の眼科検査を受ける「包括的検査」を定期的に受けるべきだと訴える。

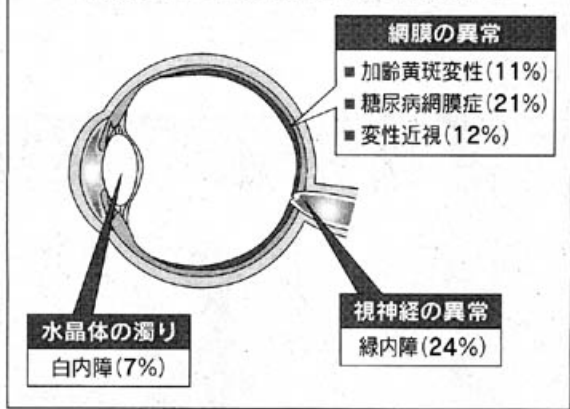
中高年襲う 目の病

□ 5 □

「包括的な眼科検査の重要性を指摘している。視力検査だけではなぜ不十分なのか。」

「視覚障害の原因は緑内障、糖尿病網膜症、変性近視、加齢黄斑変性、白内障の五大疾患で全体の4分の3を占める。こうした病気の多くは加齢が原因の慢性疾患で数年、20年程度かけてゆっくり進むため、視力が落ちるころには手遅れになりがち。白内障は進行しても治療で回復できるが、とくに緑内障や糖尿病網膜症は早期に発見することで治療や進行を遅らせる処置がしやすくなる。」

視覚障害の五大原因と患者数の割合



眼科検診「視力」以外も

国立病院機構東京医療センター
山田・視覚研究部部長に聞く



眼圧・眼底など包括的に 40歳からは定期検査を

「包括的検査では具体的に①近視や乱視の程度を測る屈折検査②眼球の圧力を測る眼圧検査③目に光を当てて内部を調べる細隙(げき)灯顕微鏡検査④目の内壁の写真を撮る眼底検査」を受ければフルメニューといえる。とくに眼圧検査では緑内障、細隙灯顕微鏡検査では角膜炎や水晶体の病気が見つかる可能性が高くなる。」

「こうした検査はどのようになれば受けられるのか。どの検査も、病院やクリニックで受診できる。原則、健康保険が使え、自己負担は2千500〜3千円。視覚障害の有病率が50歳代で増加することを考えれば、40歳ごろから5〜10年おきに定期検査を受けると理想的だ。検診自体は全部受けても1〜2時間終わる。」

| 検査の種類 | 調べる内容 | 見つかる異常 |
|--------------|----------------|--------------------------|
| 視力検査 | 目で見える像のぼやけ | 視力低下は見つかるが、原因の診断や早期発見が困難 |
| 屈折検査 | 近視や乱視の具体的な度合い | 焦点を合わせて視力が戻らなければ、病気の可能性 |
| 眼圧検査 | 空気圧などで眼球の圧力を検査 | 緑内障や網膜剥離(はくり)など |
| 細隙(げき)灯顕微鏡検査 | 目に光を当てて組織を観察 | 主に角膜炎や水晶体など眼球前部の異常 |
| 眼底検査 | 目の奥の写真を撮影 | 網膜や視神経の様子から五大疾患の多くが分かる |

「すべてを受診するのが大変な場合は、視力検査に加えて眼底検査を選ぶと効果的。五大疾患のうち白内障以外は網膜や視神経など眼底近くの異常に関連しているからだ。」

さらに、白内障は水晶体が濁る病気なので、眼底写真でも像の質が落ちるなどして、影響がとらえやすいと考えられる。人間ドックを受ける際には、眼底写真が含まれるかどうかチェックすることも大切だ。」

「東京都内であれば、いくつかの区や市が指定医療機関での受診に対して助成制度がある。例えば杉並区の場合、40〜60歳までの間、5年ごとに300円で受診可能。目黒区のように無料の自治体もある。希望者による申し込みが必要な場合や、特定の年齢に達した人にチケットを送付する場合など受診方法は様々だ。」

「包括的検査を社会として推進するにはコストもかかるのではないかと。『視覚障害の人が増えることによる社会的なデメリットは大きい。東京医療センターと順天堂大学、オーストラリアのメルボルン大学による共同調査によると、日本国内の視覚障害者は2007年には164万人で、日本社会が負担しているコストは約8兆8千億円という試算になった。』

「8兆8千億のうち、医療費や介護保険費など実際にかかる直接コストは約1兆3千億円。雇用率の低下や、ケアに当たる家族の負担など間接コストは約1兆6千億円だった。圧倒的に金額が大きかったのは、視覚障害者が疾患を抱えて生きることによるQOL(生活の質)の損失額で約5兆9千億円。目が不自由などで失うQOLは、ほかの重大疾患と比べても大きいとされている。」

「国内ではこうした定量調査をした例が少なく、今回の結果をほかの病気と相对比较することはできない。ただ、今後の高齢化で視覚障害者の数は30年に200万人まで増えると考えられる。予防や治療に力を入れることで社会全体の負担を減らすことが大切で、そのためには包括的検査を推し進めるべきだ。」

(聞き手は田中深一郎)

- 包括的検査を受診する手順
- ◆ 次のいずれかに該当する場合は受診検討を
 - ・ 40歳以上
 - ・ 糖尿病、高血圧、高度近視の持病がある
 - ・ 緑内障や黄斑変性の家族がいる
 - ・ 喫煙者
 - ◆ 受診に当たって
 - ・ ほとんどの眼科やクリニックで受診可能
 - ・ 自治体の公的助成の有無を調べる
 - ・ 人間ドックにかかる際は、眼底検査が含まれるか確認
 - ◆ 自覚症状がある場合は
 - ・ 早急に眼科受診を
 - ・ 日本眼科医会の「目の電話相談」(☎03・5765・8181)に問い合わせもできる